

【膿瘍形成虫垂炎に対する治療方針の検討】

研究の概要：

膿瘍形成虫垂炎に対する保存的治療の有効性および問題点を明らかにすることを目的としています。

研究対象：

2012年1月1日から2019年12月31日までに、相澤病院外科にて、虫垂周囲膿瘍の診断で入院となった患者さんの診療録を対象とします。

研究の意義：

膿瘍形成虫垂炎に対して保存的治療を行うことにより、大きな手術を回避できる可能性が報告されています。当院での治療成績を検討し、実際に過大な手術侵襲を回避できているのか、また保存的治療後に待機的に手術を行うことの必要性を明らかにすることは、臨床上の判断に有用であると考えられます。

研究の目的：

本研究は、外科で治療を行った膿瘍形成虫垂炎の患者さんについて検討し、その治療成績を検証することを目的としています。

研究の方法および内容：

相澤病院の診療録データベースを利用して、診療録より必要な情報(患者背景、臨床経過、手術所見、術後経過)を収集し、統計学的な解析を行います。情報収集の作業に当たっては担当者がこれを行います。

個人情報に関する配慮：

人体から採取された試料ではなく、診療録を主とした既存資料を研究に用います。閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用 to 別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究責任者：小田切 範晃

〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 外科センター 小田切 範晃

TEL 0263-33-8600 / FAX 0263-32-6763